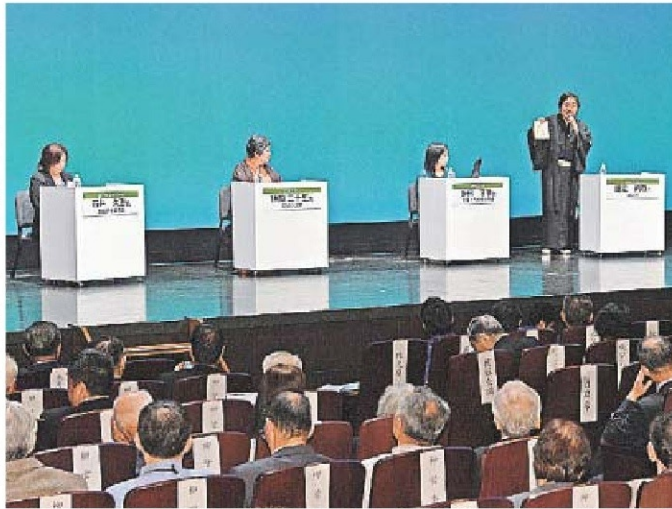


# 平成の徳川家臣ら一堂

## 静岡で基調講演やパネル討論

### 平和の尊さ 国内外に発信

幕臣の子孫らが一堂に集まり、戦いのない社会を築いた江戸時代をたたえる「平成の徳川家臣団大会2015 in 駿府」(徳川家康公顕彰四百年記念事業静岡部会事業実施本部主催、静岡新聞社・静岡放送共催)が16日、静岡市駿河区のグランシップで開かれた。歴史愛好家を含む約1100人が詰め掛けた。



「家康公を支えた家臣たち」と題して討論するパネリスト。(右から) 田辺鶴遊さん、多田谷子さん、植松三十里さん  
16日午後、静岡市駿河区のグランシップ

**家康公**  
顕彰400年

十里さんと講師田辺鶴遊さん、作家で古武術研究家の多田谷子さんが登壇した。

天下を太平に導いた徳川家康を顕彰し、平和の尊さを国内外に発信するイベントで、徳川家18代当主の徳川恒孝さんも参加した。徳川時代の歴史的意義を研究、発信する「徳川みらい学会」の会長で県立美術館の芳賀徹館長が基調講演し、明治維新後も旧幕臣が日本の近代化に貢献した様子を説明した。討論には、静岡市出身の歴史小説家植松三

田辺さんは「講談人門者は最初に『三方原軍記』を覚える。徳川家と関わりが深い」と話し、実際に講談を披露した。植松さんが「家康は身内に厳しく、家臣を大事にした。だから、家臣団は結束して太平の世作りに尽力した」と述べたのに対し、多田さんは「徳川家の剣術指南役は柳生一が実施される。徳川さんや幕臣の子孫などの関係者は17日、同区の久能山東照宮で営まれる「御鎮座四百年大祭」の御例祭に参列する。イベントもこれに合わせて同日「お墓参りツアー」が実施される。